

2013年2月18日

政策・メディア研究科 修士課程2年

矢島里佳

伝統産業を再活性化！伝統と現代を和える救世主たち

大学卒業と同時に創設した株式会社和える。2012年3月30日から、オリジナルブランド『0から6歳の伝統ブランド aeru』をスタートさせた。約9カ月に渡り行ってきたこと、社会からの反応をまとめた。

『0から6歳の伝統ブランド aeru』とは？

「21世紀の子どもたちに、日本の伝統をつなげたい」この思いから「0から6歳の伝統ブランド aeru」は誕生しました。生まれたときから何を見て、聞いて、触って、体験するかが、子どもたちの豊かな感性や価値観を育むと、わたしたちは信じています。だからこそ、職人さんが一つひとつ真心をこめて作った安心安全な日本のホンモノをもっと生活と家族に寄り添う存在に。aeruは古き良き伝統と現代の私たちの感性を和えた、子どもと一緒に育ち、大人になっても共に生活し続ける製品を全国の職人さんたちと共にお届けします。

本藍染出産祝いセット、こぼしにくい器シリーズ、和紙のボール、それぞれの製品についての現状を報告したい。

第1項『徳島県から 本藍染 出産祝いセット』

1.製品の特徴

名前：徳島県から 本藍染の 出産祝いセット



本藍染の出産祝いセット桐箱



本藍染の出産祝いセット中身

概要：オーガニックコットンを使用しており、肌触りが良い。淡い色が基本の他のベビー用品と異なり、藍が高貴な雰囲気を出し出す。ただの藍色ではなく、職人が約30回本藍染で手染めして、日本のタデ科の藍独特のほんのりと赤みがかかった深みのある藍色が出る。抗菌作用、紫外線遮蔽効果、防虫効果、保温効果、保湿効果などの機能が藍自体に備わっている。

価格：25,000円（税込）

WEB 発売日：2012年3月30日

2.関わった人とその役割

クリエイティブディレクター 株式会社和える／代表取締役 矢島里佳

アートディレクター NOSIGNER／代表 太刀川英輔

デザイナー NOSIGNER／代表 太刀川英輔、長谷川香織

コーディネーター 株式会社和える／ブランドコーディネーター 小林百絵

3.製品の外部評価

○お客さまからの声

みづきちゃん 生後1カ月

お陰様で、みづきは生後1カ月を迎えることができました！和えるの伝統工芸品で作ったベビー商品（本藍染めのタオル、靴下、肌着の三点セット！）を出産祝いとして頂きました。今日はお風呂上がりにみづきに着せて写真を撮りました☆肌触りがすごくいいみたいで写真撮影中はお腹が少しすいていたはずなのにご機嫌でした☆赤ちゃんは嘘つけないですからね！この商品に携わっている皆様、本当にありがとうございます。みづきは日本に生まれた喜びを全身で味わっています！

萌夏(もえか)ちゃん 1カ月

日本伝統の藍染の肌着ってコトで天然物っていう安心感と高級感で有り難く使わせてもらってマス！肌着っぽくない藍色に赤の刺繍がワンポイントで可愛くてお気に入り♪
靴下もモコモコ感が可愛くて両家のお母さんにも受けが良くて良いもの貰ったなあって褒めてもらいました♪

啓都(ひろと)くん 生後2カ月

まだ小さな、生まれたての子供であっても本物を知るのは大切な事だと思います。小さいからこそ必要かもしれません。息子が本物に触れる機会をくれた友人に、作って下さった方に感謝します。ありがとうございました。

天音(あまね)ちゃん 生後2カ月

素敵な肌着ありがとうございます。すごい肌触りもよくて、温かそうやね。今日、早速着せてもらいました。藍染めって、一つ一つ時間がかかっているから大切に作られるからその行程での愛情がのっていて余計に温かく感じるんやろな。」

○2012年度(第6回) キッズデザイン賞

「子どもの産み育て支援デザイン 個人・家庭部門 審査委員長特別賞」受賞



(株式会社和える提供写真)

○キッズデザイン賞とは

すべての子どもは社会の宝であり、子どもを健全に育み、安心して子育てができる環境をつくることは社会の責務であると考えます。キッズデザインとは、子どもが安全かつ感性豊かに育つための社会環境、子どもを産み育てやすい社会環境をデザインを通じて整備することです。キッズデザイン賞は、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」、「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」、「子どもたちを産み育てやすいデザイン」の3つのデザインミッションから構成された顕彰制度です。社会的、文化的な見地から公正な評価を与え、子ども環境の高度化を図ることを目的としています。



赤池学審査委員長からの評価

とても素晴らしいとりくみであり、他産地への波及効果も大いに期待出来る。

これからもぜひこの取り組みを広めていてほしい。

キッズデザイン賞賞状

○「Design for Asia Award2012 Silver Award」受賞



本藍染の出産祝いセット着用イメージ



DFAA 賞状

○Design for Asia Award2012 とは

世界の人口の半分がアジアに住んでいます。ますます成長し成熟を続ける市場においては、製品やインテリア、アパレルや更には通信に至るまで、アジアという社会や消費者のユニークな特徴がデザインを考える上で重要な要素となり影響を与えています。香港デザインセンターが主催するアジアデザイン賞 (DFA: Design for Asia Award) はビジネスや、持続可能で質の高い生活に不可欠となる優れたデザインの価値についてビジネス界及び一般の意識を高めることを目的とし、アジアの生活様式を反映し、それに影響を与える優れたデザインによってビジネス的成功をおさめた世界各国の企業に対して授与される賞です。

○ご紹介頂いたメディア

2012年02月10日 「本藍染」の良さ広めたい (毎日新聞)

2012年03月30日 乳幼児向け 天然藍染 産着・靴下、色落ち少なく (徳島新聞)

2012年04月04日 起業のチカラ 出井伸之氏対談 (日刊工業新聞)

2012年04月09日 「子どもの頃から日本伝統のホンモノに触れてほしい」という思いからつくられたベビー・キッズブランド「和える-aeru-」 (greenz.jp)

2012年04月12日 職人ブランド学生が企画 本藍染めのベビー用品 (読売新聞)

2012年04月20日 職人たちの伝統のワザを世界と未来に伝えるホンモノのなでしこ (METRO MIN.)

2012年04月30日 本藍染で赤ちゃんの肌清潔に (日経流通新聞)

- 2012年06月16日 日本が認めた世界基準 伝統工芸の技をベビーキッズにむけて(モノ・マガジン)
- 2012年08月17日 「妹尾和夫のパラダイス Kyoto」(KBS 京都ラジオ)
- 2012年08月17日 学生起業家と百貨店がコラボ (日刊工業新聞)
- 2012年08月19日 伝統産業で乳幼児グッズ (大阪日日新聞)
- 2012年08月22日 キッズデザイン部門賞 藍染出産祝い3席 (徳島新聞)
- 2012年08月23日 VBと乳幼児向け商品 藍染め産着や砥部焼食器(日本経済新聞)
- 2012年08月29日 伝統技術で乳幼児商品 藍染め産着など (日経流通新聞)
- 2012年09月03日 和の伝統品で、子どもの感性を磨きたい。(こころざし応援団)
- 2012年09月21日 和の職人東ね子ども用品 (日本経済新聞)
- 2012年09月27日 出産祝いは、赤ちゃんのお肌にもやさしい日本の伝統品「本藍染」の産着を！ (msn トピックス)
- 2012年10月05日 就職義務じゃない (朝日新聞)
- 2012年10月12日 BABY GIFTS 100 (阪急コミュニケーションズ)
- 2012年11月12日 「notty★live」(NOTTV)
- 2012年11月15日 「VIEW ～時代の道標～」(よみうりテレビ)
- 2012年12月05日 人と人をつなげる、贈り物大図鑑 (ソトコト)
- 2012年12月07日 【ウーマン・オブ・ザ・イヤー2013】20代若手リーダー “私の仕事&目指すもの” (日経 WOMAN)
- 2012年12月16日 世界の傑作品 (モノ・マガジン)
- 2012年12月23日 LOHAS SUNDAY (J-WAVE 81.3)
- 2013年01月07日 起業のチカラアントレプレナー対談-伝統と感性教育-ベネッセホールディングス社長福島保×和える代表矢島里佳 (日刊工業新聞)

4.製品開発への思い

「日本に生まれてきてくれてありがとう！」

世界中にある国の中から日本に生まれてきてくれた赤ちゃんを日本の“あい”でお出迎えしたい。この思いから「本藍染出産祝いセット」は誕生した。日本の“あい”がたっぷり詰まった本藍染の産着で日本に舞い降りた赤ちゃんを包む。そしてはじめて日本の地を踏む瞬間を日本の“あい”からできた靴下で祝いたい。

丁寧に角を落とし、丸みを帯びた可愛らしい桐箱はあかちゃんの肌を思わせる。フタにはオリジナルの可愛らしいロゴがあしらわれている。箱だけでも欲しいと言う声が出るほど、この箱は人々の心を動かす。また製品も一つひとつ紙に包まれており、開ける

喜びを演出する。実際に着ることができるのは8カ月頃までだが、その後、桐箱に戻し、産着を着ていたときの写真、そのほか幼少期の記念になるようなものを一緒にいれ、しまっておく。子どもが20歳になったときに、再びそれをプレゼントする。これをプレゼントする事で、子どもたちは幼少期から日本の伝統に触れることができ、知る機会を得る。また、職人に仕事が創出されるため、日本の職人の技術が次世代につながる。

○作り手からの和えるの取り組み評価

矢野藍秀さん

天然灰汁発酵建ての藍染めは生地を強くし、防虫、防炎効果があり、体にも良い事は広く知られていると思います。しかし現在流通している藍染め製品の多数が化学染料又は化学薬品併用の「藍色染め」である事はあまり知られていません。数年前から本藍の普及と伝承を目的に数人と活動をしてきました。その頃和える代表の矢島氏と知り合い共に活動するようになりました。本物を伝えたい、という一直線な想いは製品にも強く反映されていて、本藍とのコラボで時代に合った新しい製品が生まれていると思います。今後も和えるの活動に協力させて頂いて、一人でも多くの人に本物を提供できるように努力したいと思います。

第2項『こぼしにくい器シリーズ』

1.製品の特徴

名前：石川県から 山中漆器の こぼしにくい器

徳島県から 大谷焼の こぼしにくい器

愛媛県から 砥部焼の こぼしにくい器



こぼしにくい器イメージ、使用イメージ

概要：器の内側に返しがついており、食べ物をこぼしにくい工夫がされている。スタッキングも出来るデザインとなっており、収納面に関しても機能的である。また、こぼしにくい器は同じデザインを、山中漆器（石川県・漆器）、大谷焼（徳島県・陶器）、砥部焼（愛媛県・磁器）で作っており、それぞれの素材のメリット・デメリットを比較しながら、使い手の好みによってお皿を選ぶことができる。大きさはボール、深皿、平皿の3種類。子ども用の食器として誕生したが、その使いやすさは大人にも定評があり、老若男女問わず使われ始めている器。こぼしにくいため、食事がスムーズになり食べることが楽しく感じられるようになる。職人の手作りの温もりと、自然素材の安心・安全な器で、毎日の食事を楽しめる。



こぼしにくい器 全15種類、スタッキングイメージ

価格：

山中漆器

ボウル：4200円、深皿：4500円、平皿5000円（税込）

大谷焼

ボウル：3000円、深皿：3200円、平皿3500円（税込）

砥部焼

ボウル：2500円、深皿：2700円、平皿3000円（税込）

WEB 発売日：2012年9月21日

2.関わった人とその役割

クリエイティブディレクター 株式会社和える／代表取締役 矢島里佳

アートディレクター NOSIGNER／代表 太刀川英輔

デザイナー NOSIGNER／代表 太刀川英輔、長谷川香織

コーディネーター 株式会社和える／ブランドコーディネーター 小林百絵

3.製品の外部評価

4歳の子供用に茜色の3点セットを購入しました。「食べやすい」と言って喜んで毎食使っています(^^)

自然素材は見た目も手触りも温かみがあり、心も和みます。スプーンやフォークが当たってもガチャガチャいわず、優しく受け止めてくれますね。この器のおかげか、嫌いな野菜もバリバリ食べるようになり、驚いています。これからも良い物を届けてくださいね！

怜生(れお)くん 2歳3ヶ月

「こぼしにくい器(砥部焼)」を利用して頂きました。息子が1歳半頃の時から現在(2歳3か月)まで使っていますが、器のふちに「返し」がついており、スプーンですくう際に外にこぼれにくく上手に食べられています。またデザインもシンプルで何も柄が入っていません。普通の子供用食器はかわいいキャラクターの絵などが入っていて子供の興味を引く一方で、殊更「食べる」ということ自体への興味や集中力が削がれていることを観察していて感じました。食べ始めて少し満足してくると、キャラクターを探して指さしてみたり、声をあげてみたりと、食器で遊んでしまい、そちらの方に興味が集中した結果、食べ物が残ってしまい「もう要らない・・・」などといったこともありました。何も柄が入っていないと子供の興味は食べ物に集中し、良くも悪くも「美味しいか、美味しくないか」「熱いか冷たいか、食べられるものか、そうでないか」を吟味している時間が多いように感じました。一見、磁器や陶器など大人しか使えないかと思われがちですが、意外に小さな子供が使うこともでき、良い効果もあるものだと思います。

あかりちゃん 1歳

ご飯にしても、うどんにしても最後の1粒まですくいやすいです。他の器ではなかなか器への工夫はありませんので、使いやすいです。また、漆塗りの器からあたたかみを感じられるので、食事中にも何か安心感のようなものを与えてもらっています。この器を通じて、子どもだけでなく、大人も普段の食事を楽しめ、愛着がもてる器ではないでしょうか。

○常設店舗（五十音潤）

伊勢丹新宿本館6階 マタニティ新生児ショップさま
ザ・ベニンシュラ東京さま

○ご紹介頂いたメディア

- 2012年08月18日 食べ物こぼれにくく 子ども向けの器 共同開発（徳島新聞）
- 2012年08月19日 伝統産業で乳幼児グッズ（大阪日日新聞）
- 2012年08月23日 VBと乳幼児向け商品 藍染め産着や砥部焼食器（日本経済新聞）
- 2012年08月29日 伝統技術で乳幼児商品 藍染め産着など（日経流通新聞）
- 2012年09月07日 “家族の食事を楽しい時間に 和える（aeru）の『こぼしにくい器』”（自分と暮らしを見つめるWEBマガジン spoon）
- 2012年09月21日 和の職人束ね子ども用品（日本経済新聞）
- 2012年10月05日 就職義務じゃない 起業でアイデア生かす（朝日新聞）
- 2012年10月26日 内側の「返し」で食べやすく（日経流通新聞）
- 2012年10月30日 7PM「ちーたかのHIT☆ばんざい」（BS JAPAN）
- 2012年12月23日 LOHAS SUNDAY（J-WAVE 81.3）
- 2013年01月03日 子ども育む愛媛の工芸（愛媛新聞）

4.製品開発への想い

「家族の食事を楽しい時間に」

生後5～6ヶ月頃から始まる、赤ちゃんの離乳食。「食べる」という動きに慣れていない赤ちゃんにとっては、とても大変なことである。ましてや、赤ちゃんや子どもたちにとってはスプーンやお箸などの道具を使って食べることは難しく、まわりにたくさんこぼしてしまったり、手を使ってしまう。それを見守りながら、お手伝いをする親にとって食事の時間はとてもたいへんである。そこで『こぼしにくい器シリーズ』は、そんなたいへんな離乳食を手助け出来るような器を作りたいと考えた。器の内側に“返し”をつけることで、食べ物がスプーンに乗りやすく、こぼしにくい形状が実現した。そのため赤ちゃんが一人でもごはんを食べやすくなり、食事が楽しくなることを目指している。もう1つのコンセプトは、“赤ちゃんが使っても安心で、大人になってもずっと使えるホンモノの品質”。一つひとつが日本の職人さんたちによって手作りされている。山中漆器（石川県・漆器）、大谷焼（徳島県・陶器）、砥部焼（愛媛県・磁器）の3種類の中から、素材や重さ、質感などをみて好きなものを選ぶことができる。離乳食の練習のストレスを少しでも解消できるデザインと、職人さんがひとつひとつ手作りした、赤

ちゃんから大人までみんなが楽しく美味しく使える『こぼしにくい器』をお届けしたい。

5. 作り手からの和えるの取り組み評価

『石川県から 山中漆器の こぼしにくい器』我戸正幸さん

○和えるともものづくりをして得た気づき

こぼしにくい器の作成にあたり、材料を樺にされたこと。最近では、我々の樺という材料の持つ民芸風なイメージを脱却する為材料に樺を用いず、北欧風なメープルやウォールナットなどに近い漆器の材料であるミズメやトチなど導管の少ない材料を採用している。当然、デザイン側としてもミズメ、トチなどを望む意見が多く材料の時点で大きくイメージが変る。和えるさんは、その材料が持つ意味やストーリーを掘り起こし背景とする事によって、樺の雄大なイメージと子供の成長を重ね合わせ樺の使用を指定された事が非常に素晴らしいと感じた。形状的に「返し」の形状を作ることでこぼしにくくなるが、口径が全体のφより小さくなる事によって口を付けて飲みにくくなったり、重ねにくくなったり、持ちにくくなるデメリットも多い。今回のアイデアは全においてクリアされた素晴らしいデザインかと感じる。

市場で即効果を得たいが故に多くブランドを作りたくなりがちだが、和えるさんはターゲットとなる年齢層と売り先を確りと設定されており、各伝統工芸の強みを確りと熟知しその強みを的確に商品に反映させている。作り手の意見とデザイナーの意見を纏め上げ、持ち前の発信力でデザイナー・aeru・工芸品産地の3者をブランディングして行くのではないのでしょうか？

○これから和えるとやりたいこと

沢山商品を作っても、和えるさんブランドとしては伝統産地も偏ることなく商品を増やさなければならないと思いますし、控えめではありますが今作ったこぼしにくい器をクオリティーを維持しながら供給し続けたいと思います。伝統工芸は何処も同じかもしれませんが、一時的な注文よりも中長期的な安定した注文を望みます。とにかく末長いお付き合いをしていければと思います。

○和えるに期待することなどを

これまでOEMというとその名のおり、その企業のブランドで商品を販売するという事ですので、企業側は作り手側の産地や職人、会社を隠して販売してきました。最近では和えるさんにもいえることですが、職人や産地の背景なども商品に盛り込む

事など「山中漆器で作っています」と発信して頂ける事が大変有り難く、確立した技術、技法を盛り込まれた商品であれば産地全体のイメージUPや活性化など様々な効果に繋がる。流石！和のコンシェルジュ！なでしこ里佳！

和えるさん、社長様には、山中漆器産地いや伝統的工芸品の各産地の未来が係っています！何を期待するというよりも、全～部っ期待しております。

『徳島県から 大谷焼の こぼしにくい器』勝浦直紀さん

私は和えると仕事をして多くの事に気づかされました。中でも一番感じたことが、「伝統工芸の力」です。和えるの考える子ども食器はすごく斬新なデザインであり、私たち職人ではなかなか思いつかないようなものでした。そして同時に、使う子どものことをすごく考えてデザインされてるなと思いました。実際に作ってみたり、使っているのを見ることで自分達の持っている伝統工芸の力の新たな一面を感じ取ることができました。今後も和えるには日本の伝統工芸の力を引き出し、その魅力を多くの方に伝えていっていただけたらと思います。

『愛媛県から 砥部焼の こぼしにくい器』大西先さん

やってみて他人が描く(望む)作品を作る難しさを改めて感じましたね。今までは自分の望む形のみ追いかけてきました。作り手として無難な形のみ追いかけていた気がします。学生の時のような課題を与えられこなしている感じでしたね。楽しんでます(笑)内側のそりの部分の発想など単純ですが考えたことがなかった。そう言う意味でまたいろんな食器を使う場面を思い描いていこうと考えさせられましたね。作家はかなり経験があり頭固いです。柔軟な発想や違う角度からの物がみれません。いろんなアイデアや希望をジャンジャンぶつけてほしいな。考えて考えて昨日の自分より上手くなり技も磨いていきたいんだ。また全国の作家どうしてコラボレーションできると思います。その先頭にたって日本にありそうでなかった商品作りましょう。

第3項『愛媛県から 湧き水で漉いた 和紙のボール』

1.製品の特徴

名前： 愛媛県から 湧き水で漉いた 和紙のボール



和紙のボール使用イメージ

概要：日本の名水百選に選ばれた愛媛県の「観音水」の湧き水で漉いた、自然の恵みがたっぷりつまった手透き和紙のボール。丸く編まれた藤の木の中に、可愛らしい和柄の鈴を入れ、職人が1つずつ丁寧に10回繰り返し漉いて作る。



和紙のボール中の鈴

木と和紙だけで出来たつくりは繊細に見えるが、割合丈夫である。職人にもう一度漉き直してもらったりペアサービスも行う。和紙の風合いが子どもの指先の感覚を刺激し、五感に訴える。

価格：大きいサイズ 3500 円（税込）、小さいサイズ 2800 円（税込）

2.関わった人とその役割

クリエイティブディレクター 株式会社和える／代表取締役 矢島里佳

アートディレクター NOSIGNER／代表 太刀川英輔

デザイナー NOSIGNER／代表 太刀川英輔、長谷川香織

コーディネーター 株式会社和える／ブランドコーディネーター 小林百絵

3.製品の外部評価

○お客さまの声

Y.S ちゃん

早速妹の家に届きました。正直に言うと、赤ちゃんがキャラクターが描かれていないモノに興味を持つかな？と心配していたのですが、このボールの独特な触り心地や、鈴の音、不規則に空いた穴が、姪の好奇心を刺激したようで、ほかの（キャラクターのない）玩具のようにすぐ飽きたりしないで、遊び続けていました。」

大我(たいが)くん、1歳0ヶ月

今や毎日あのボールで息子と遊ぶのが日課となっていますが、大人の私も触るだけで何だか心落ち着きます。他のおもちゃはすぐ飽きてしまう息子が自分から寄っていくほどで、手間をかけられた和紙の温かみは赤ちゃんにも心地良いのだろうと思っています(*^^*)以前、観音水のペットボトルが売られていて飲んだことがあります！あんな柔らかく美味しいお水で漉かれているなんて益々ボールに愛着が沸きそうです。

○常設店舗

伊勢丹新宿本館6階 マタニティ新生児ショップさま

○ご紹介頂いたメディア

2012年08月19日 伝統産業で乳幼児グッズ（大阪日日新聞）

2012年08月23日 VBと乳幼児向け商品 藍染め産着や砥部焼食器（日本経済新聞）

2012年08月29日 伝統技術で乳幼児商品 藍染め産着など（日経流通新聞）

2012年11月11日 「女子彩々」（BS-TBS）

2013年01月03日 子ども育む愛媛の工芸（愛媛新聞）

2013年01月07日 起業のチカラアントレプレナー対談-伝統と感性教育-
ベネッセホールディングス社長福島保×和える代表矢島里佳（日刊工業新聞）

4.製品開発への想い

子どもが和紙に触れられる環境をつくりたいと思った。もともとは半紙や障子、凧などに使われていたので、触れることの出来る存在であった。しかし時代との関係性が崩れ、日常的に使われる事が少なくなった。そんな中、照明器具や住宅用の装飾具として再び現れたが、「使う、触れる」という対象ではなく、「見る」という対象に変化してしまった。そこで、もう一度「使う、触れる」という機会を作りたいと思い、今回の和紙のボールという商品への着想に至った。まさにボールと言う日常的なものに和紙を活かす事で、触れることはもちろん、そこから安らぎ等燃えられるような商品が完成した。

5. 作り手からの和えるの取り組み評価

佐藤友佳理さん

職人とはもともと、殿様のお抱えだったり、豪商や豪農のからの需要、市民が必要とするものを作っていた。浮世絵は版元という出版社があり、市民がみたいものを娯楽本として出版する形だったり。なので、本来の職人は極めてデザイナーにも近い立場なんじゃないかな〜と。求められる場所と、必要なデザイン・機能がある程度明確な中で最高のものをつくる。機能と美が両方必要とされたものづくりを普通にしていた時代なのだと思います。和えるの関わっている職人さんは、本来の職人の資質を備えてるひとなか。

明治以降、西洋の流れからか、アーティスト性・作家性の強い「職人ばいアーティスト」が現れてきた。それが、茶筌が折れちゃう器をつくっちゃう現象なのかな。で、和えるのしごとは、千利休の働きみたいかも！と。消費者（殿さまなど）と職人との間を取り持ち、今と同じく職人だけでは補い切れない視点・能力を持ち合わせ、飛躍的に洗練されたものを作った人。

時代の流れを見、茶の湯の世界を総合的に知り、無駄なものを省く究極の美意識を持ち、戦略を持ち、豊臣秀吉の無茶振りをもとりまとめたり。高いコミュニケーション能力で職人に要求を伝えて今までにないものをかたちにし、お客様に届けていく。何かで、千利休は戦国時代のスティーブ・ジョブズだというのを読んだけどなんか納得。里佳ちゃん、めざせ現代のスティーブジョブズ！

実際に商品を購入してくださった・贈ってくださったお客様からのメッセージ、そして商品開発に関わってくださった、作り手さんたちからのメッセージから、日本の職人の技術を活かす事の必要性を感じた。今後も株式会社和えるで『0から6歳の伝統ブランド aeru』を引き続き、成長させていきたい。和えるは特定の職人の技術に縛られる

ことなく、職人の技術を横断出来る特徴を生かし、ベビー・キッズと職人の技術の架け橋となり、職人の技術を活かしながら新たな市場・顧客を創出し続けることができれば、より多くの日本の職人の技術を継承することに直接的につながると強く感じた。